

◇令和5年度 農村工学技術研修の概要 (農研機構 農村工学研究部門)

研修区分	研修コース	目的	内容	予定者数	時期	対象者	備考	
基礎技術研修	基礎技術(年3回)	農村工学に関する基礎学力、基礎技術、基礎知識を習得し、農業農村整備事業に携わる若手職員としての資質の向上を図る。	数学、水理学、土質力学、構造力学、鉄筋コンクリートの設計、測量等の講義、講義と関連した実験実習、事例研究等	各24名	(第1回) 6月5日～8月2日 (第2回) 9月4日～10月31日 (第3回) 9月4日～9月22日、10月30日～12月6日	国の職員であって、「一般職(高卒程度)」又は「一般職(大卒程度)」で採用され、農業農村整備の業務に従事している者で入省2～3年目程度の者。入省4年目以降の未受講者も対象。 ※令和5年度は3回開催とするため、R2、R3、R4にて受講できなかった職員の積極的な申し込みを求める。	(第1回) 集合形式：6月26日～7月14日 その他の日程はオンライン形式(第2回) 集合形式：9月25日～10月13日 その他の日程はオンライン形式(第3回) 集合形式：10月30日～11月17日 その他の日程はオンライン形式	
中堅技術研修	中堅技術	農村工学に関する幅広い技術、知識を習得し、農業農村整備事業に携わる中堅職員としての資質の向上を図る。	当部門の全領域の研究に関する講義、実習、事例研究等	20名	9月11日～9月22日	国、都道府県、独立行政法人、都道府県水土木里ネット等の職員であって、農業農村整備関係の業務に概ね7年従事している者	ハイブリッド形式 ・オンライン：9月11日～9月15日 集 合：9月19日～9月22日 ※オンライン研修は農村振興係長Aと同時開催。	
	農村振興係長A	農業農村整備事業を推進するにあたっての企画立案能力の向上を図る。	スマート農業技術、防災等の講義、事例研究等	20名	9月11日～9月15日	本年度に農林水産省農村振興局が主催する「係長A」研修の受講予定者	オンライン形式 ※中堅技術と同時開催。	
※専門技術研修の対象者は、国、都道府県、独立行政法人、都道府県水土木里ネット等の職員								
専門技術研修	ダム機能保全Ⅰ	ダム機能保全に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	調査・設計・施工等の建設技術に関する講義	20名	5月29日～6月2日	ダムの安全管理や耐震性能照査等の業務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者	ダム業務の経験が少なく、ダム業務の理解に必要な調査・設計・施工等の建設技術に関する知識を習得する。	オンライン形式
	ダム機能保全Ⅱ		堤体の安全管理、耐震性能照査等に関する講義及びダム機能診断に関する現地実習等	20名	6月5日～6月8日	機能診断と耐震性能照査を中心に技術知識の習得を行う。なお、受講者は、ダム機能保全Ⅰの修了者、またはダム知識を有している者とする。		集合形式
	用水計画と河川協議	かんがい用水等の取水に必要な用水計画や河川協議に係る専門的知識の習得と事例研究や実践演習により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	用水計画、河川協議、水路システム、河川水利行政等に関する講義、河川協議の実務に関する事例研究及び実践演習等	20名	7月5日～7月14日	用水計画や河川協議に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者		ハイブリッド形式 ・オンライン：7月5日～7月7日 集 合：7月10日～7月14日
	土地地質	土地地質に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	土地地質調査の基本、各種調査試験方法、関連事業等に関する講義、ボーリング調査実習及び物理探査実習、及び事例課題研究等	20名	10月23日～10月27日	土地地質の調査・設計・施工に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者		集合形式
	水利システム	水利システムに係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	農業水利システムの利用、管理、機能診断、性能設計、水管理制御システム等に関する講義及び水路実験等	20名	7月31日～8月4日	水利システム関係の実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者		集合形式
	農村計画・地域資源	農村計画及び農村環境(地域資源、環境配慮)に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	農村活性化、農村環境、地域資源、環境配慮等に関する講義及び環境調査手法に係る実習、演習及び発表討論、ワークショップ実習等	20名	9月26日～10月6日	農村計画あるいは農村環境に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者		ハイブリッド形式 ・オンライン：9月26日～9月29日 集 合：10月2日～10月6日
	施設安全管理	農業水利施設等の施設安全管理に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	農業用施設の耐久性照査、コンクリート構造物の保全管理等に関する講義、機能診断調査に関する実習、事例研究等	20名	7月18日～7月28日	施設安全管理に係る実務に従事している者、従事予定の者、または本専門的知識を補充しようとする者		ハイブリッド形式 ・オンライン：7月18日～7月21日 集 合：7月24日～7月28日
	経済効果Ⅰ・理論	効果算定・分析・評価に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等	40名	6月19日～6月23日	農村振興施策に係る実務に従事している者、または従事予定の者		集合形式
	経済効果Ⅱ・実践演習		費用対効果分析等に関する講義、費用対効果分析のための各種効果算定の演習等	20名	11月13日～11月17日	農村振興施策に係る実務に従事している者、または当実務従事者と同程度の知識を有する者で、いずれも原則として「経済効果Ⅰ・理論」を修了している者		集合形式
	農村防災・減災技術指導者	農村防災全般及びため池の防災・減災技術に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	農村や農地海岸の災害の防止・抑制、被災対応、関連法令・事業制度、ワークショップ等に関する講義、ため池氾濫解析及び減災対策に関する演習等	20名	5月22日～5月26日	農村防災施策に係る指導的実務に従事している者、または従事予定の者で、いずれも農業農村整備関係業務に概ね5年以上従事している者		集合形式
	ため池防災・減災技術	ため池の防災・減災技術に係る専門的知識の習得により、指導的役割を担える技術者としての能力向上を図る。	ため池減災技術としてハザードマップ作成時の浸水域予測方法及び浸水想定区域作成に関する演習等	60名	5月15日～5月19日	ため池の防災・減災対策に係る実務に従事している者、または従事予定の者 なお、都道府県単位で活動する都道府県職員及び都道府県水土木里ネットの職員を主な対象者とする。		オンライン形式

注1: 集合研修の実施場所は、筑波産学連携支援センターもしくは農村工学研究部門本館で基本的にを行う。

注2: 受講希望者が予定人数を上回った場合は、当該人数で研修が可能か当部門が判断する。人数調整が必要な場合の選定は、国、都道府県、独立行政法人、都道府県水土木里ネット等の順を基本とする。